

事項	黒毛和種種雄牛「照神12」の産肉能力		
ねらい	<p>黒毛和種種雄牛「照神12」については、産肉能力間接検定の結果増体に優れた成績を示したものの肉質等については全国平均並であった。</p> <p>その後、より正確な遺伝的能力を得るため、現場の肥育成績を基に産肉形質の育種価（遺伝的能力）を解析評価した結果、増体及び肉質共に非常に優れた能力を有していることが判明したので本県の基幹種雄牛として選定し、これの供用について普及に移す。</p>		
指導奨励内容	<p>1 「照神21」の概略</p> <p>(1) 登録番号 黒12548 (83.0点)</p> <p>(2) 生年月日 平成6年3月21日</p> <p>(3) 血統</p> <pre> graph LR     A[父「谷福土井」 (高 950)] --- B[祖父「安谷土井」— 曾祖父「安美土井」]     A --- C[祖母「きくつる」— 曾祖父「菊美土井」]     D[母「みゆき」 (育13056)] --- E[祖父「安美土井」— 曾祖父「田安土井」]     D --- F[祖父「みつふく」— 曾祖父「菊美土井」]   </pre> <p>2 産肉形質の育種価評価結果（平成12年9月評価、評価種雄牛645頭）</p> <p>(1) 現場の肥育成績そのものではA-4以上の格付け割合が94%（32頭中30頭、13年1月5日現在）であり非常に優れた上物格付け割合となっている。</p> <p>(2) 脂肪交雑の育種価評価は評価種雄牛中の6位であり非常に優れている。</p> <p>(3) 枝肉重量は同39位と但馬の系統としては優れている。</p>		
期待される効果	<p>1 本牛を交配することにより脂肪交雑、枝肉重量の改善が期待される。</p> <p>2 本牛の父は田尻系の「谷福土井」で、基幹種雄牛の「雪国」や「丸優」の父は菊美系の「菊安土井」であり、系統が異なるのでこれらの娘牛にも供用可能となり、広範に活用できる。</p>		
普及上の注意事項	皮下脂肪が厚めであることから、本牛の産子を肥育する場合は飼料給与等に注意する。		
担当	青森県畜産試験場 森田支場 種畜科	対象地域	県下全域
発表文献等	平成10年度 青森県畜産試験場試験研究成績書		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 種雄牛の産肉形質の育種価評価結果一覧表（評価種雄牛645頭中の「脂肪交雑」上位10頭）  
（平成12年9月評価、青森県畜産試験場森田支場）

種雄牛	血統			枝肉重量			コース芯面積		
	父	母	母の父	順位	育種価	正確度	順位	育種価	正確度
第1花国	北国7の8	あおはな	花桜	1	76.309	0.899	3	10.067	0.873
丸優	菊安土井	すずよし	茂金波	478	-14.175	0.970	162	2.539	0.963
安福165の9	安福	しげふじ13の7	茂富士	111	18.239	0.967	8	8.916	0.957
福安	安福165の9	おちあい	紋次郎	7	52.491	0.922	11	8.107	0.899
北国7の8	第7糸桜	きたぐに7	晴美	27	36.685	0.987	30	5.506	0.984
照神12	谷福土井	みゆき	安美土井	39	31.455	0.902	171	2.412	0.875
雪国	菊安土井	てるみ	安谷土井	482	-14.586	0.929	1	10.505	0.907
照長土井	菊照土井	てるなほ	安美土井	619	-40.685	0.714	354	0.530	0.683
菊安土井	菊則土井	むらよし	安千代土井	525	-21.280	0.866	41	4.927	0.849
菊福	菊安土井	やすふく	安谷土井	498	-17.431	0.824	457	-0.329	0.785

種雄牛	バラの厚さ			皮下脂肪厚			脂肪交雑			後代
	順位	育種価	正確度	順位	育種価	正確度	順位	育種価	正確度	
第1花国	3	0.833	0.854	127	-0.306	0.842	1	2.165	0.904	25
丸優	16	0.646	0.955	43	-0.493	0.951	2	1.641	0.972	150
安福165の9	63	0.325	0.949	57	-0.450	0.944	3	1.635	0.969	97
福安	89	0.279	0.883	131	-0.295	0.872	4	1.585	0.926	37
北国7の8	2	0.886	0.981	68	-0.425	0.979	5	1.454	0.988	582
照神12	461	-0.080	0.854	639	0.481	0.841	6	1.425	0.907	28
雪国	1	0.902	0.891	72	-0.419	0.880	7	1.382	0.933	44
照長土井	622	-0.444	0.662	171	-0.237	0.649	8	1.266	0.721	1
菊安土井	26	0.508	0.838	33	-0.544	0.831	9	1.249	0.869	3
菊福	167	0.165	0.759	304	-0.095	0.742	10	1.247	0.831	13

- 注1) 本表の産肉形質の育種価評価は、全国和牛登録協会管理の育種価評価システムにより県内で肥育された肉牛7,079頭の枝肉成績を基にその血縁関係も活用し、また極力環境要因の影響を補正し遺伝的能力、すなわち育種価を評価したものである。
- 2) 「順位」は、評価種雄牛645頭中の順位である。
- 3) 「育種価」は、基礎集団（昭和50年頃に生まれた牛）の平均を0とし、これに対して、いくら優れているか劣っているかという偏差値で示されている。  
（全平均：枝肉重量397.3085、コース芯面積48.0517、バラ厚7.1565、皮下脂肪厚2.5202、脂肪交雑1.2245）
- 4) 「正確度」は、評価された育種価と真の育種価との相関として示され、1に近づくほど正確となる。
- 5) 「後代」は、枝肉成績が入力された直接の後代牛頭数であり、10頭以上あれば0.8程度の実用的信頼度を得られる。
- 6) 育種価評価結果は、現場からの枝肉成績を基に年2回更新されるので活用には最新の評価結果を参考とする。